

米子工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	企画デザイン論	
科目基礎情報							
科目番号	0030			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	専攻科 建築学専攻			対象学年	専2		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	企画に必要な資料や過去の記録などは適宜配布する						
担当教員	金澤 雄記						
到達目標							
1. 地域住民などの一般ユーザーの視点を大切にし、理解し易く、機能的な展示空間をデザインできる (B-1) 2. チームで仕事をするための協働作業力、コミュニケーション力を習得し、自分自身の能力をチームの中で具体的に応用・適用できる 3. CAD、画像処理ソフトやパワーポイントなどのソフトウェアを駆使して、効果的な展示ポスターや展示レイアウトのデザインができる (e)							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
地域住民などの一般ユーザーの視点を大切にし、理解し易く、機能的な展示空間をデザインできる		地域課題を改善するための実際の設計実習を通して、創造的な設計提案技法を習得し、具体的に応用・適用できる。		地域課題を改善するための実際の設計実習を通して、創造的な設計提案技法を習得する。		創造的な設計提案技法を習得できない。	
チームで仕事をするための協働作業力、コミュニケーション力を習得し、自分自身の能力をチームの中で具体的に応用・適用できる		チームで仕事をするための協働作業力、コミュニケーション力を習得し、自分自身の能力をチームの中で具体的に応用・適用できる。		チームで仕事をするための協働作業力、コミュニケーション力を習得する。		チームで仕事をするための協働作業力、コミュニケーション力を習得できない。	
CAD、画像処理ソフトやパワーポイントなどのソフトウェアを駆使して、効果的な展示ポスターや展示レイアウトのデザインができる		CAD、画像処理ソフトやパワーポイントなどのソフトウェアを駆使して、効果的な展示ポスターや展示レイアウトのデザインができる		CAD、画像処理ソフトやパワーポイントなどのソフトウェアを駆使して、効果的な展示ポスターや展示レイアウトのデザインが一部できる		CAD、画像処理ソフトやパワーポイントなどのソフトウェアを駆使して、効果的な展示ポスターや展示レイアウトのデザインができない	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE e							
教育方法等							
概要		建築や都市を計画していく上での基礎段階にあたる「企画」と、それをかたちにしていく「デザイン」について考える。 。特に公共事業においては、アカウンタビリティ（説明責任）が求められており、調査・企画によって市民のニーズと地域のポテンシャルを発掘し、それに基づくデザインを理解可能なかたちによりコミュニケーションを図っていくことが重要である。 この講義では、調査・企画・デザイン・コミュニケーションのプロセスにより、まちづくりなどの人々に直接影響を与えるデザインの運営を行ってもらう。全体のプロセスを通じて、現地調査の仕方、企画書の書き方、デザインの進め方、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。					
授業の進め方・方法		課題は毎年異なる。 2014年度は、米子自動車学校改修計画案の立案を行った。 2015年度は、境港市において市民ホール建て替え計画案の立案を行った。 2016年度は、隠岐島地域において空き家利活用計画の立案を行った。 2017年度は、隠岐島地域において空き家利活用計画の立案を行う予定である。（2017年2月現在）					
注意点		企画デザイン論では、建築等を計画していく上での基礎段階にあたる「企画」と、それをかたちにしていく「デザイン」についての技術や知識を習得する。 次のような自学自習を60時間以上行うこと。 ・授業内容を理解するため、予め配布したプリントで予習すること。 ・授業内容の理解を深めるため、復習を行うこと。 ・原則毎時間、次回に向けて課題を与えるので、レポートを作成すること。					
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション			授業内容と主旨を理解する	
		2週	課題1説明			課題内容と主旨を理解する	
		3週	課題に対する取り組み			必要事項を調べる	
		4週	課題に対する取り組み			事例を調べる	
		5週	中間発表			他に理解できるプレゼンを行う	
		6週	課題に対する取り組み			提案を行う	
		7週	課題に対する取り組み			提案を行う	
		8週	現地での成果発表			一般に理解できるプレゼンを行う	
	4thQ	9週	課題2説明			課題内容と主旨を理解する	
		10週	課題に対する取り組み			必要事項を調べる	
		11週	課題に対する取り組み			事例を調べる	
		12週	中間発表			他に理解できるプレゼンを行う	
		13週	課題に対する取り組み			提案を行う	
		14週	課題に対する取り組み			提案を行う	
		15週	現地での成果発表			一般に理解できるプレゼンを行う	
		16週	現地での成果発表			一般に理解できるプレゼンを行う	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	現代社会における都市計画の課題の位置づけについて説明できる		3	後3,後15,後16

				現代にいたる都市計画論について説明できる。	3	後3,後15,後16
				市街地形成と都市交通のあり方について説明できる。	3	後3,後15,後16
				街路計画の手法と理念について説明できる。	3	後3,後15,後16
				日本の土地利用計画の仕組みについて説明できる。	3	後3,後15,後16
				方法・制度の変遷について説明できる。	3	後3,後15,後16
				景観形成・風景計画、用途・形態規制の仕組みについて説明できる。	3	後3,後15,後16
				市街地を開発する仕組みについて説明できる。	3	後3,後15,後16
				土地区画整理事業について説明できる。	3	後3,後15,後16
				市街地再開発事業について説明できる。	3	後3,後15,後16
				地区計画制度について説明できる。	3	後3,後15,後16
				建築協定・緑化協定などの住民参加・協働のまちづくりの体制について説明できる。	3	後3,後15,後16
				モジュールについて説明できる。	3	後3,後15,後16
				建築設計に関わる基本的な家具をはじめとする住設備機器などの寸法を知っている。	3	後3,後15,後16
				居住系施設(例えば、独立住宅、集合住宅など)の計画について説明できる。	3	後3,後15,後16
				教育や福祉系の施設(例えば、小学校、保育所、幼稚園、中・高・大学など)あるいは類似施設の計画について説明できる。	3	後3,後15,後16
				文化・交流系の施設(例えば、美術館、博物館、図書館など)あるいは類似施設の計画について説明できる。	3	後3,後15,後16
				医療・業務系の施設(例えば、オフィスビル、病院、オーディトリウム、宿泊施設等)あるいは類似施設の計画について説明できる。	3	後3,後15,後16
				建築計画・設計の手法一般について説明できる。	3	後3,後15,後16
				都市と農村の計画について説明できる。	3	後15,後16
				近世(例えば、住宅建築、書院造、数寄屋風書院、町屋、農家、茶室、霊廟、社寺建築、城郭)の特徴について説明できる。	3	後15,後16
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	都市・地区・地域・建築物の規模に応じた防災に関する計画、手法などを説明できる。	3	後15,後16
				日本および海外における近現代の建築様式の特徴について説明できる。	3	後15,後16
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3	後3,後15,後16
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3	後3,後15,後16
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	3	後3,後15,後16
				合意形成のために会話を成立させることができる。	3	後3,後15,後16
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	3	後3,後15,後16
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	後3,後15,後16
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	後3,後15,後16
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	後3,後15,後16
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	後3,後15,後16
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	後3,後15,後16
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	3	後3,後15,後16
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる。	3	後3,後15,後16
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	後3,後15,後16
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	3	後3,後15,後16
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	後3,後15,後16
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	3	後3,後15,後16

				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	後3,後15,後16
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	後3,後15,後16
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	後3,後15,後16
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	後3,後15,後16
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	3	後3,後15,後16
				自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。	3	後3,後15,後16
				目標の実現に向けて計画ができる。	3	後3,後15,後16
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	3	後3,後15,後16
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	3	後3,後15,後16
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	後3,後15,後16
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	後3,後15,後16
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	後3,後15,後16
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	3	後3,後15,後16
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	後3,後15,後16
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	3	後3,後15,後16
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	3	後3,後15,後16
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	3	後3,後15,後16
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	3	後3,後15,後16
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	3	後3,後15,後16
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	3	後3,後15,後16
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	後15,後16
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	後15,後16
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	後15,後16
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	後15,後16
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	3	後15,後16
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	後15,後16
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	後15,後16
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	後15,後16
				企業には社会的責任があることを認識している。	3	後15,後16
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	後15,後16
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	後15,後16
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	後15,後16
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	後15,後16
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	後15,後16
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	後15,後16
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのように活用・応用されているかを認識できる。	3	後5,後15,後16
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	後5,後15,後16
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	後5,後15,後16

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	0	0	80	100
基礎的能力	0	10	0	0	0	40	50
専門的能力	0	10	0	0	0	40	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0